沖新田一座 後楽園公演 沖田姫物語

2013. 25. 8. 31 13: 30~15: 00



鶴鳴館玄関和室にて

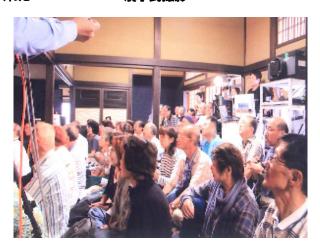
鶴鳴館玄関和室にて 前田氏と

濱手氏撮影

写真は演劇仲間の塩見共之氏が撮影してくれた



箕輪座長開演の挨拶



濱手氏撮影 満席の観覧者 中央右 竹原 隣前山本園長ら



第1幕 御前会議 中央が池田光政



左が熊沢蕃山役の私 右が津田永忠



奉行 蕃山(私)



殿(光政)の決断 **濱手氏撮影**





第4幕 沖新田へ移住 左端が私 濱手氏撮影



沖新田へ移住の相談 濱手氏撮影



いよいよ移住開始 不安と希望を胸に 濱手氏撮影





濱手氏撮影

1幕~5幕が終り フィーナーレ

竹原氏撮影

殿様役(祖父役兼務)の信定報三氏がお礼の挨拶 私は前列左端(農民役)

写真撮影 団員仲間の塩見氏

AR-NET の竹原氏(仲間 10 数名参加)

岡山歴史研究会の濱手氏(彼は鏡野町から来て戴く)皆様の協力を戴きました。

私(山崎)のコメント

今年(平成 25 年 3 月)新しく「沖新田一座」を結成することになり、50 年前の操南小学校の学芸会で発表した、当時 5 年生の生徒が中心になり一昨年からスタートし操南小学校区の行事で 3 度ほど公演していたが、沖田神社の氏子の絡みで、今は分離している操明小学校区に箕輪座長が小川連合町内会長に相談され、私に話が廻ってきた。昨年度のスタート時に柴田一先生の監修を受けるため稽古時に先生の指導を戴いた。その折岡山歴史研究会の関係と私が沖新田の住人の誼(よしみ)で柴田先生と同席し、新しいこうした文化的な活動に強く感動した経緯もあり、「遊び心」も手伝って参加することにした。

しかしその「遊び心」は全くの検討違いであった。私は1幕で熊沢蕃山役、4幕では農民役で仲間の配役に比べ、比較的台詞の少ない役であったが、仲間との稽古時点で、暗記してきた台詞が、演技の流れの中で「出てこない」。4月25日の私にとって始めての公演が沖田神社への「奉納公演」で、「頭が真っ白」になることを経験した。簡単な台詞が出てこない、焦れば焦るほど頭が真っ白になる。後で仲間が、「観客は細かい台詞まで知らないから」と慰められ、仲間の絆を感じた次第である。

古稀を迎えた老人が一生の思い出に「遊び心」で参加したのは大変な心得違いであった。 「真っ白」を解消するには、何度も何度も稽古するしかないことを、今回の経験で学んだ。 演劇の分野は専門家も多岐に渡り、長い歴史と文化が存在する。その一端に触れた。